

令和 6 年度横須賀市地方公営企業

決 算 審 査 意 見

第 1 審査の種類

決算審査（地方公営企業法第30条第 2 項の規定に基づく審査）

第 2 審査実施の期間

令和 7 年 6 月 1 日から同年 8 月 8 日まで

第 3 審査の対象

令和 6 年度横須賀市水道事業会計決算

令和 6 年度横須賀市公共下水道事業会計決算

令和 6 年度横須賀市病院事業会計決算

上記各会計決算に関する事業報告書、キャッシュ・フロー計算書、収益費用明細書、固定資産明細書及び企業債明細書

第 4 審査の主な着眼点

審査に付された各会計の決算その他関係書類が関係法令に準拠して作成されており、その計数が正確であり、事業の経営成績、財政状態及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているか。また、予算執行が適正に行われたか。

各公営企業が事業の経済性を発揮し、公共の福祉を増進するように運営されたか。

第 5 審査の実施内容

横須賀市監査基準に準拠し、総勘定元帳その他の会計帳票及び関係証書類との照合その他必要と認めた審査手続を実施した。

なお、各公営企業が事業の経済性を発揮し、公共の福祉を増進するように運営されたかの検討に当たっては、事業の経営分析を行った。

第 6 審査の結果

審査に付された各会計の決算その他関係書類は関係法令に準拠して作成されており、その計数は正確であり、事業の経営成績、財政状態及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認められた。また、予算執行は適正に行われていると認められた。

事業の運営面についてみると、各公営企業ともに企業の経済性を発揮し、本来の目的である公共の福祉を増進するように運営されていると認められた。

主要な経営指標等の推移

I 水道事業

水道事業の最近 5 事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
経 営 成 績	営業収益	9,030,767	8,912,515	9,005,274	9,097,495	9,174,526
	営業利益又は 営業損失 (△)	585,427	538,435	△5,883	21,582	100,050
	経常利益	1,378,812	1,267,336	862,675	904,955	951,798
	当年度純利益	1,349,393	1,258,118	809,328	905,933	876,722
	繰入金を除いた 当年度純利益	1,339,937	1,248,468	799,058	896,399	866,533
財 政 状 態	資産合計	99,442,647	100,978,877	100,853,427	102,499,956	103,607,102
	資本金	56,829,502	57,730,555	58,442,389	59,175,221	59,762,059
	資本合計	62,860,313	64,118,695	64,928,023	65,833,957	66,710,681
	自己資本構成比率	78.8%	78.5%	78.8%	78.0%	77.6%
	1 年超滞納未収金	11,034	12,365	13,320	14,150	13,692
	不納欠損額	2,075	790	1,034	2,726	3,601
	企業債年度末残高	18,034,649	18,524,866	18,511,503	19,054,726	19,333,146
	企業債利息	153,617	119,716	94,213	82,217	79,069
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	業務活動による キャッシュ・フロー	4,169,383	3,844,871	3,984,662	4,002,720	3,892,239
	投資活動による キャッシュ・フロー	△4,585,959	△ 5,183,415	△ 3,789,139	△3,732,595	△4,359,725
	財務活動による キャッシュ・フロー	△447,900	490,217	△13,363	543,222	278,420
	資金期末残高	5,555,875	4,707,549	4,889,709	5,703,056	5,513,991
そ の 他	建設改良費	4,871,623	6,268,612	4,919,796	4,705,289	5,634,278
	一般会計繰入金	13,224	9,650	13,471	9,534	10,189
	職員数	174人	170人	168人	165人	160人

- (注) 1 営業収益には、消費税等は含まれていない。
2 繰入金を除いた当年度純利益は、当年度純利益から収益的收入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
3 一般会計繰入金は、収益的收入と資本金的收入の合計である。
4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本

【当年度の概要】

(1) 経営成績

営業収益は、能登半島地震応急復旧支援に係る負担金収入の増によるその他営業収益の増などにより、前年度に比べて7,703万円（0.8%）増加し、91億7,452万円となった。

営業利益は、営業収益が増加し、資産減耗費の減などにより営業費用が減少したため、前年度に比べて7,846万円（363.6%）増加し、1億5万円となった。

経常利益は、営業利益の増加に加え、営業外費用の減少割合が営業外収益の減少割合を上回ったため、前年度に比べて4,684万円（5.2%）増加し、9億5,179万円となった。

当年度純利益は、半原水源系統管路ずい道充填工事实施による半原水源系統整理費の増に伴い特別損失が増加したことなどにより、前年度に比べて2,921万円（3.2%）減少し、8億7,672万円となった。

繰入金を除いた当年度純利益は、前年度に比べて2,986万円（3.3%）減少し、8億6,653万円となった。

(2) 財政状態

資産合計は、長期性預金の満期償還により投資その他の資産が減少したものの、主に構築物等の資産増加に伴う有形固定資産の増により、前年度に比べて11億714万円（1.1%）増加し、1,036億710万円となった。

資本合計は、主に建設改良積立金の使用額の増に伴い当年度未処分利益剰余金が増加したことなどにより、前年度に比べて8億7,672万円（1.3%）増加し、667億1,068万円となった。

1年超滞納未収金は、督促中の未収金が減少したことにより、前年度に比べて45万円（3.2%）減少し、1,369万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の借入額が償還額を上回り、前年度に比べて2億7,842万円（1.5%）増加し、193億3,314万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローは、前年度に比べて業務活動で1億1,048万円減少し、投資活動で6億2,712万円減少し、財務活動で2億6,480万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて1億8,906万円（3.3%）減少し、55億1,399万円となった。

(4) その他

建設改良費は、主に経年化した配水管の耐震性能を備えた管への更新工事などの配水施設整備事業費の増加により、前年度に比べて9億2,898万円（19.7%）増加し、56億3,427万円となった。

一般会計繰入金は、職員に係る児童手当に要する経費が増加したことにより、前年度に比べて65万円（6.9%）増加し、1,018万円となった。

職員数は、前年度に比べて5人減少し、160人となった。

Ⅱ 公共下水道事業

公共下水道事業の最近 5 事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
経 営 成 績	営業収益	8,978,076	8,877,462	8,664,815	8,956,540	9,500,904
	営業利益又は 営業損失 (△)	△3,723,911	△4,130,107	△4,804,942	△4,734,351	△4,378,632
	経常利益	1,016,566	693,129	247,167	359,688	775,078
	当年度純利益	979,009	648,673	280,450	372,884	770,178
	繰入金を除いた 当年度純利益又は 当年度純損失 (△)	△1,276,527	△1,584,151	△1,748,149	△1,484,936	△1,543,561
財 政 状 態	資産合計	236,141,607	229,324,707	225,841,676	222,510,100	221,929,415
	資本金	17,550,078	18,490,859	19,469,869	20,118,543	20,398,994
	資本合計	40,854,385	41,503,073	41,784,314	42,157,725	42,934,616
	自己資本構成比率	65.9%	67.0%	67.5%	67.8%	67.9%
	1 年超滞納未収金	14,475	13,071	13,029	14,959	14,412
	不納欠損額	3,856	2,662	2,397	2,938	2,989
	企業債年度末残高	77,611,193	73,706,701	71,256,959	68,272,914	66,167,735
	企業債利息	812,474	664,063	527,962	437,968	368,234
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	業務活動による キャッシュ・フロー	4,108,471	4,195,189	3,112,885	4,078,323	3,793,960
	投資活動による キャッシュ・フロー	△3,547,885	△3,415,361	△2,503,995	△1,622,748	△1,182,965
	財務活動による キャッシュ・フロー	△313,847	△2,620,649	△1,084,070	△1,560,440	△439,630
	資金期末残高	3,424,152	1,583,331	1,108,150	2,003,285	4,174,651
そ の 他	建設改良費	6,607,396	3,246,100	6,190,116	4,767,159	6,578,413
	一般会計繰入金	3,620,104	3,701,500	3,569,194	3,604,861	4,118,217
	職員数	131人	130人	128人	127人	120人

- (注) 1 営業収益には、消費税等は含まれていない。
2 繰入金を除いた当年度純利益又は当年度純損失は、当年度純利益から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本

【当年度の概要】

(1) 経営成績

営業収益は、他会計負担金の増などにより、前年度に比べて5億4,436万円(6.1%)増加し、95億90万円となった。

営業損失は、営業収益の増加割合が、処理場費などの営業費用の増加割合を上回ったため、前年度に比べて3億5,571万円(7.5%)減少し、43億7,863万円となった。

経常利益は、支払利息及び企業債取扱諸費などの営業外費用が大きく減少したため、前年度に比べて4億1,538万円(115.5%)増加し、7億7,507万円となった。

当年度純利益は、特別利益の減少割合が、特別損失の減少割合を上回ったものの、経常利益が増加したため、前年度に比べて3億9,729万円(106.5%)増加し、7億7,017万円となった。

繰入金を除いた当年度純損失は、前年度に比べて5,862万円(3.9%)増加し、15億4,356万円となった。

(2) 財政状態

資産合計は、主に構築物等の減価償却等に伴う固定資産の減少により、前年度に比べて5億8,068万円(0.3%)減少し、2,219億2,941万円となった。

資本合計は、主に当年度純利益の増に伴い当年度未処分利益剰余金が増加したことなどにより、前年度に比べて7億7,689万円(1.8%)増加し、429億3,461万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて54万円(3.7%)減少し、1,441万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の償還額が借入額を上回り、前年度に比べて21億517万円(3.1%)減少し、661億6,773万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローは、前年度に比べて業務活動で2億8,436万円減少し、投資活動で4億3,978万円増加し、財務活動で11億2,081万円増加した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて21億7,136万円(108.4%)増加し、41億7,465万円となった。

(4) その他

建設改良費は、主に下町浄化センター2・3系受変電設備更新工事などの終末処理場建設事業に充てられているが、前年度からの繰越工事の竣工により前年度に比べて18億1,125万円(38.0%)増加し、65億7,841万円となった。

一般会計繰入金は、資本費平準化債への振替の減に伴い現金繰り入れが増加したことにより、前年度に比べて5億1,335万円(14.2%)増加し、41億1,821万円となった。

職員数は、前年度に比べて7人減少し、120人となった。

Ⅲ 病院事業

病院事業の最近 5 事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
経 営 成 績	医業収益	434, 714	683, 495	684, 558	697, 240	685, 579
	医業利益又は 医業損失 (△)	△4, 527, 391	△5, 742, 454	△3, 375, 967	△817, 323	△1, 193, 300
	経常利益又は 経常損失 (△)	△294, 909	125, 584	110, 506	67, 148	△855, 128
	当年度純利益又は 当年度純損失 (△)	△302, 192	115, 099	110, 506	21, 118	△895, 493
	繰入金を除いた 当年度純利益又は 当年度純損失 (△)	△925, 192	△885, 900	△888, 493	△977, 881	△1, 894, 493
財 政 状 態	資産合計	18, 086, 027	18, 362, 779	17, 493, 379	21, 978, 368	39, 259, 195
	資本金	12, 765, 956	12, 765, 956	12, 765, 956	12, 989, 956	13, 224, 477
	資本合計	10, 360, 034	10, 475, 133	10, 585, 639	10, 830, 758	10, 169, 785
	自己資本構成比率	61. 5%	61. 1%	64. 4%	52. 1%	27. 3%
	1 年超滞納未収金	4, 595	4, 336	3, 177	3, 070	3, 014
	不納欠損額	459	86	1, 018	2	5
	企業債年度末残高	4, 087, 913	3, 740, 189	4, 528, 695	10, 312, 547	27, 820, 052
	企業債利息	34, 596	31, 696	29, 650	40, 626	136, 837
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	業務活動による キャッシュ・フロー	676, 275	1, 715, 205	29, 915	387, 372	△270, 891
	投資活動による キャッシュ・フロー	△656, 774	△584, 476	△1, 206, 467	△5, 724, 079	△17, 024, 075
	財務活動による キャッシュ・フロー	△246, 185	△347, 724	788, 506	6, 007, 167	17, 717, 712
	資金期末残高	3, 509, 229	4, 292, 234	3, 904, 188	4, 574, 649	4, 997, 395
そ の 他	建設改良費	821, 073	524, 272	1, 358, 079	6, 290, 412	18, 357, 542
	一般会計繰入金	728, 000	1, 001, 000	999, 000	1, 223, 000	1, 233, 521
	職員数	13人	13人	13人	13人	9人

- (注) 1 医業収益には、消費税等は含まれていない。
2 繰入金を除いた当年度純利益又は当年度純損失は、当年度純利益又は当年度純損失から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本
5 職員数は市職員数であり、指定管理者の職員は含まれていない。

【当年度の概要】

(1) 経営成績

市民病院及び総合医療センター（以下「両病院」という。）は、公益社団法人地域医療振興協会を指定管理者とする指定管理者制度（利用料金制）を導入している。

医業収益は、市民病院では減少し、総合医療センターでは増加した。事業合計では前年度に比べて1,166万円（1.7%）減少し、6億8,557万円となった。

医業損失は、両病院とも増加した。事業合計では前年度に比べて3億7,597万円（46.0%）増加し、11億9,330万円となった。

経常損失は、市民病院が2億110万円を計上し、総合医療センターが6億5,402万円を計上した。事業合計では前年度の経常利益から、8億5,512万円の経常損失に転じた。

当年度純損失は、市民病院が2億110万円を計上し、総合医療センターが6億9,439万円を計上した。事業合計では前年度の純利益から、8億9,549万円の純損失に転じた。

繰入金を除いた当年度純損失は、前年度に比べて9億1,661万円（93.7%）増加し、18億9,449万円となった。

(2) 財政状態

資産合計は、市民病院では減少し、総合医療センターでは増加した。事業合計では前年度に比べて172億8,082万円（78.6%）増加し、392億5,919万円となった。

資本合計は、両病院とも減少した。事業合計では前年度に比べて6億6,097万円（6.1%）減少し、101億6,978万円となった。

1年超滞納未収金は、市民病院では減少し、総合医療センターでは増加した。事業合計では前年度に比べて5万円（1.8%）減少し、301万円となった。

企業債年度末残高は、市民病院では減少し、総合医療センターでは増加した。事業合計では前年度に比べて175億750万円（169.8%）増加し、278億2,005万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローは、前年度に比べて業務活動で6億5,826万円減少し、投資活動で112億9,999万円減少し、財務活動で117億1,054万円増加した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて4億2,274万円（9.2%）増加し、49億9,739万円となった。

(4) その他

建設改良費は、主にうわまち病院の移転建替えとなる新市立病院建設事業費が増加したことにより、前年度に比べて120億6,713万円（191.8%）増加し、183億5,754万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて1,052万円（0.9%）増加し、12億3,352万円となった。

職員数は、前年度に比べて4人減少し、9人となった。

1 市民病院

市民病院の最近 5 事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
経 営 成 績	医業収益	417,091	413,409	415,352	405,709	244,017
	医業利益又は 医業損失 (△)	△2,197,158	△2,790,013	△1,960,214	△375,753	△386,030
	経常利益又は 経常損失 (△)	△321,185	64,068	46,103	△4,467	△201,100
	当年度純利益又は 当年度純損失 (△)	△328,468	60,022	46,103	△50,497	△201,100
	繰入金を除いた 当年度純利益又は 当年度純損失 (△)	△951,468	△559,977	△571,896	△644,497	△595,100
財 政 状 態	資産合計	7,317,456	7,182,368	6,688,632	6,213,664	5,978,541
	資本金	9,970,356	9,970,356	9,970,356	10,089,356	10,208,356
	資本合計	4,267,165	4,327,188	4,373,292	4,441,794	4,359,694
	自己資本構成比率	60.7%	62.8%	67.9%	73.7%	74.9%
	1 年超滞納未収金	3,483	3,336	3,052	2,967	2,900
	不納欠損額	409	5	163	0	0
	企業債年度末残高	1,533,122	1,355,015	1,306,808	1,541,769	1,445,946
	企業債利息	18,273	16,564	15,193	14,689	16,719
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	業務活動による キャッシュ・フロー	415,668	361,154	543,510	475,973	153,569
	投資活動による キャッシュ・フロー	△292,372	△279,652	△221,352	△426,336	△365,239
	財務活動による キャッシュ・フロー	△150,120	△178,106	△48,207	353,276	23,384
	資金期末残高	858,722	762,118	1,036,069	1,438,983	1,250,698
そ の 他	建設改良費	321,159	269,912	242,864	468,903	135,048
	一般会計繰入金	623,000	620,000	618,000	713,000	513,000
	職員数	3人	3人	3人	3人	3人

- (注) 1 医業収益には、消費税等は含まれていない。
2 繰入金を除いた当年度純利益又は当年度純損失は、当年度純利益又は当年度純損失から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本金収入の合計である。
4 自己資本構成比率＝（資本合計＋繰延収益）／総資本

【当年度の概要】

(1) 経営成績

医業収益は、主に他会計負担金の減により、前年度に比べて1億6,169万円(39.9%)減少し、2億4,401万円となった。

医業損失は、医業収益の減少が経費の減などによる医業費用の減少を上回ったため、前年度に比べて1,027万円(2.7%)増加し、3億8,603万円となった。

経常損失は、主に新型コロナウイルス感染症関係補助金の減などにより医業外収益が減少したため、前年度に比べて1億9,663万円(4,401.7%)増加し、2億110万円となった。

当年度純損失は、経常損失と同額の2億110万円となった。

繰入金を除いた当年度純損失は、前年度に比べて4,939万円(7.7%)減少し、5億9,510万円となった。

(2) 財政状態

資産合計は、前払金の皆増などにより流動資産が増加したものの、建物などの有形固定資産の減により固定資産が減少したため、前年度に比べて2億3,512万円(3.8%)減少し、59億7,854万円となった。

資本合計は、資本金が一般会計からの出資金により増加したものの、当年度純損失により欠損金が増加したため、前年度に比べて8,210万円(1.8%)減少し、43億5,969万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて6万円(2.3%)減少し、290万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の償還額が借入額を上回り、前年度に比べて9,582万円(6.2%)減少し、14億4,594万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローは、前年度に比べて業務活動で3億2,240万円減少し、投資活動で6,109万円増加し、財務活動で3億2,989万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて1億8,828万円(13.1%)減少し、12億5,069万円となった。

(4) その他

建設改良費は、主に市民病院東棟外壁改修工事等に伴う建物改修費が減少したことにより、前年度に比べて3億3,385万円(71.2%)減少し、1億3,504万円となった。

一般会計繰入金は、主に救急医療に要する経費に係る繰入金が減少したことにより、前年度に比べて2億円(28.1%)減少し、5億1,300万円となった。

職員数は、前年度と同数の3人であった。

2 総合医療センター

総合医療センターの最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：千円)

区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
経 営 成 績	医業収益	17,623	270,086	269,206	291,531	441,561
	医業利益又は 医業損失(△)	△2,330,232	△2,952,441	△1,415,753	△441,569	△807,270
	経常利益又は 経常損失(△)	26,275	61,515	64,402	71,616	△654,028
	当年度純利益又は 当年度純損失(△)	26,275	55,077	64,402	71,616	△694,393
	繰入金を除いた 当年度純利益又は 当年度純損失(△)	26,275	△325,922	△316,597	△333,383	△1,299,393
財 政 状 態	資産合計	10,768,570	11,180,411	10,804,746	15,764,703	33,280,654
	資本金	2,795,600	2,795,600	2,795,600	2,900,600	3,016,121
	資本合計	6,092,868	6,147,945	6,212,347	6,388,963	5,810,090
	自己資本構成比率	62.1%	59.9%	62.3%	43.6%	18.8%
	1年超滞納未収金	1,112	999	124	103	113
	不納欠損額	50	81	854	2	5
	企業債年度末残高	2,554,791	2,385,173	3,221,886	8,770,777	26,374,105
	企業債利息	16,322	15,132	14,456	25,937	120,118
キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	業務活動による キャッシュ・フロー	260,606	1,354,050	△513,594	△88,601	△424,460
	投資活動による キャッシュ・フロー	△364,402	△304,823	△985,115	△5,297,743	△16,658,835
	財務活動による キャッシュ・フロー	△96,065	△169,617	836,713	5,653,890	17,694,327
	資金期末残高	2,650,506	3,530,116	2,868,119	3,135,665	3,746,696
そ の 他	建設改良費	499,914	254,360	1,115,214	5,821,508	18,222,493
	一般会計繰入金	105,000	381,000	381,000	510,000	720,521
	職員数	10人	10人	10人	10人	6人

- (注) 1 医業収益には、消費税等は含まれていない。
2 繰入金を除いた当年度純利益又は当年度純損失は、当年度純利益又は当年度純損失から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
3 一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
4 自己資本構成比率＝(資本合計＋繰延収益)／総資本
5 職員数については、2年度から5年度までの職員数のうち7人、6年度の職員数のうち3人は、総合医療センター専従の資本勘定職員である。

【当年度の概要】

(1) 経営成績

医業収益は、主に他会計負担金の増により、前年度に比べて1億5,003万円(51.5%)増加し、4億4,156万円となった。

医業損失は、減価償却費の増などによる医業費用の増加が医業収益の増加を上回ったため、前年度に比べて3億6,570万円(82.8%)増加し、8億727万円となった。

経常損失は、主に新型コロナウイルス感染症関係補助金の減などにより医業外収益が減少したため、前年度の経常利益から、6億5,402万円の経常損失に転じた。

当年度純損失は、総合医療センター周辺道路補修工事に伴う特別損失を計上した結果、前年度の純利益から、6億9,439万円の純損失に転じた。

繰入金を除いた当年度純損失は、前年度に比べて9億6,600万円(289.8%)増加し、12億9,939万円となった。

(2) 財政状態

資産合計は、総合医療センター竣工に伴い、主に建物などの有形固定資産の増により固定資産が増加したため、前年度に比べて175億1,595万円(111.1%)増加し、332億8,065万円となった。

資本合計は、資本金が一般会計からの出資金により増加したものの、当年度純損失により利益剰余金が減少したため、前年度に比べて5億7,887万円(9.1%)減少し、58億1,009万円となった。

1年超滞納未収金は、前年度に比べて1万円(10.1%)増加し、11万円となった。

企業債年度末残高は、総合医療センター建設に係る企業債借入額が償還額を上回り、前年度に比べて176億332万円(200.7%)増加し、263億7,410万円となった。

企業債利息は、企業債未償還残高の増により、前年度に比べて9,418万円(363.1%)増加し、1億2,011万円となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローは、前年度に比べて業務活動で3億3,585万円減少し、投資活動で113億6,109万円減少し、財務活動で120億4,043万円増加した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて6億1,103万円(19.5%)増加し、37億4,669万円となった。

(4) その他

建設改良費は、うわまち病院から総合医療センターへの移転に伴い、主に新市立病院建設事業費が増加したことにより、前年度に比べて124億98万円(213.0%)増加し、182億2,249万円となった。

一般会計繰入金は、主に救急医療に要する経費に係る繰入金が増加したことにより、前年度に比べて2億1,052万円(41.3%)増加し、7億2,052万円となった。

職員数は、総合医療センター専従の資本勘定職員の減により、前年度に比べて4人減少し、6人となった。

